



“全員優勝” を今後につなぐ



6月7日（土）に、運動会が無事行われました。閉会式が終わった途端に降り出した雨には驚いてしまいましたが、すべての競技を最後まで開催することができ、本当によかったと思っています。運動会の開催にあたりましては、当日の応援やお手伝いはもちろんのこと、当日までの間にもたくさんのご協力をいただきました。保護者や地域の皆様の支えがあってこそこの運動会です。あらためてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

☆

☆

☆

今年の運動会は赤白の同点優勝でした。結果発表の時に、互いに手を取り合って飛び跳ねて喜ぶ子どもたちの姿を見て、私は教育実習の時に自身が考えたことをふと思いだしました…。

私が学生時代にお世話になった実習校では、実習中に運動会が行われたのですが、練習の段階から子どもたちが頑張る姿を間近で見ていた私は、運動会本番で徒競走のゴールに飛び込んでくる子ども達の姿を見て、

「みんな本当にいい表情をしているな。それぞれに全力を出し切って全員が満足感でいっぱいだ。それなのに、人によって1位や2位といった順位がついてしまう…。これって、子どもたちにとっては実はどうでもよいことで、頑張ったそのことだけでもう十分なのではないかな…。」

ということを感じ、実習日誌にそのことを綴りました…。その時のことを思い出したのです。

最近、徒競走のゴール直前で全員が一度ストップをし、手をつないで仲良く一緒にゴールをする運動会を行う学校が出てきているという話を耳にします。ここでその是非を述べるつもりはありませんが、私が学生時代に感じたことを突き詰めていくと、もしかするとそういう判断につながっていくことがあるのかもしれない…。

子どもたちは「勝つ」という目標に向かって全力を尽くしますが、運動会の目的はもちろん勝ち負けではありません。さらに言うと、運動会は当日限りの取り組みでもありません。むしろ、当日までの取り組みの中にこそたくさんの“価値”があります。できなかったことができるようになったり、互いに思いが通じ合ったりし、いつしか大声で仲間の頑張りに声援を送っている…。楽しさや喜びばかりではもちろんなく、悔しさや緊張と戦いながら、仲間の声援に励まされたり、自らの成長を自信にしたりして前を向いて進んでいく…。そういったかけがえのない“経験”の中で、「協力し合うこと」「主体的に取り組むこと」「全力を尽くす経験を味わうこと」などが積み重なり、「自分の限界や可能性が広がり」「なりたい自分になっていく」。これが運動会の、そして学校の教育活動の目的であり意義です。



勝敗や順位は目標ではありません。しかし、勝ち負けがある運動会だからこそ、それぞれが真剣に自分の限界に挑戦することができます。日常の中では感じることをできない「大きな心の動き」を味わうことができたことは、一人ひとりにとって大変貴重な経験となったのではないのでしょうか。（裏面へ）

学生時代から30年近い年月を経た今の私が思うのは、学生時代の私は、「負け＝悪いこと」という価値観が強かったのかもしれないということです。しかし今は、「勝ち＝よいこと」「負け＝悪いこと」という価値観ではなく、「全力で勝負し合える相手がいることへの感謝」や「相手へのリスペクトこそが大切」だという思いがあります。勝っても負けても全員が大満足できる運動会。そんな運動会をこれからもみんなで創り上げていきたいと思います。



さて、今年の運動会は赤白の同点優勝でした。本気で勝ち負けをかけた時間を全員で共有し、それぞれがそれぞれの全力を出し切り、結果として全員が優勝！なんと素敵な幕切れなのでしょう…。

運動会で身につけたたくさんの力を、これからの生活の中に生かしていけるよう、学校では今後も教育活動を充実させて参りますので、子ども達の確かな成長を一緒に見守り、それぞれの Cha Cha Cha を支えていただければ幸いです。今後も、大人の愛国っ子の力をぜひ子どもたちにお届けください。引き続き、皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

あぐり愛国 ～植え付けから3週間～

愛国小の朝の風物詩のひとつ、それは「水やり」です。農園に作物の植え付けを行ってからは、子どもたちは登校してくるとすぐに玄関にランドセルを置き、畑へと向かいます。たとえ前日の晩に大雨が降ったとしても、「今日は当番だ！」と言いながら自らの役割をしっかりと果たすその姿は、誰にも止めることはできません…。これだけしっかりと水やりを行う子どもたちは、私は愛国小に来るまで見たことがありません。しっかりと先輩から受け継がれてきた伝統なのですね。また、同じく感心させられるのは、先生方の姿です。実は先生方も出勤してくると校内に入るより前に畑へ直行し、作物に水をあげたり様子を見たりしています。こんな先生方の姿も、やはり愛国小に来るまでは見たことがありません…。まさに愛国小ならではの素晴らしい文化であり、学びの環境なのだと感じさせられます。

そんなみんなの思いや愛情が届き、作物は今のところ順調に成長している様子です。学校だより第2号では、「今年度は子どもたちの疑問をもとに課題を設定」という情報をお伝えしましたが、あらためて正式に確定した各班の作物と、探究テーマを紹介します。

- | | | |
|----------|---------------|-------------------------|
| A班：ピーマン | ・ 3品種の違い | ・ マルチのありなしでの成長の比較 |
| B班：ジャガイモ | ・ 男爵とメークインの違い | ・ 水のみと牛乳を混ぜて与えたものの成長の比較 |
| C班：えだまめ | ・ 2品種の違い | ・ 肥料のありなしでの成長の比較 |
| D班：スイカ | ・ 2品種の違い | ・ 水やりのありなしでの成長の比較 |



探究が上手く進むよう、今年は畑にこのように比較内容がわかる看板が設置されています。まだ大きな違いはないものの、きっと着実に変化が出てくるはず。どんな結果が出ようとも、子どもたちにとっては間違いなく真剣な追究であり学びです。たくさんの発見や気づきが生まれることを願います。

農園活動では、昨年までも「観察」を行ってきていますが、今年は子どもたちの見る目の輝きが違います。それぞれの班がいろいろな違いを発見し、「先生聞いて！あのね！」という驚きの声を聞かせてくれるのが今からとても楽しみです。